

## ⑥5 常磐自動車道 大熊IC建設事業

受賞機関 東日本高速道路株式会社東北支社  
いわき工事事務所

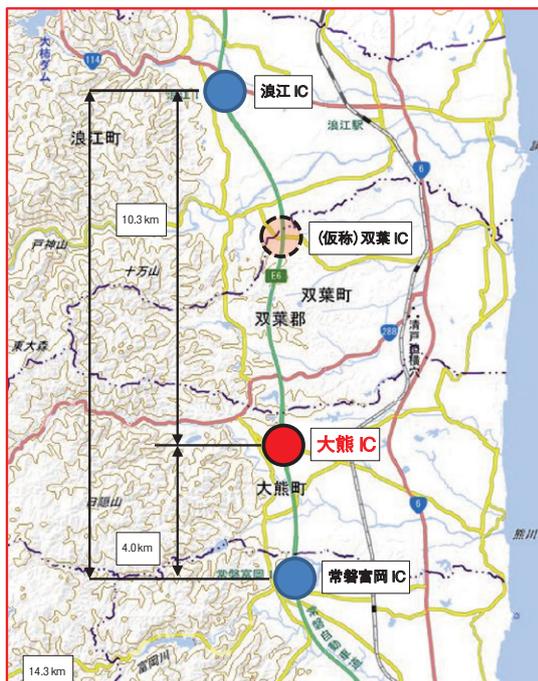
**キーワード** 追加IC、避難路確保、帰宅困難区域内の作業

### 全建賞審査委員会の評価ポイント

東日本大震災及び福島第一原子力発電所事故からの復興・再生事業の加速及び緊急時における避難路確保を目的に、常磐自動車道に大熊ICを整備した事業。帰宅困難区域内の工事作業員の確保や線量管理の徹底など、施工にあたり厳しい制約条件が課されたが、工法や作業、事業マネジメントの工夫により約4年という短期間でフルインターチェンジを完成させた点が評価された。

### 1. はじめに

常磐自動車道は、東京都を起点とし、関東地方から東北部の太平洋側を北進し、宮城県仙台市に至る総延長352kmの高速道路である。大熊ICは、常磐富岡ICから浪江IC間に位置し、常磐自動車道と大熊町道西20号線との交差点に設置する追加ICであり、平成31年3月31日に開通した。



地理院地図（国土地理院）(<https://maps.gsi.go.jp/>)  
をもとに、東日本高速道路株式が加工  
大熊 IC 位置図

### 2. 事業の概要

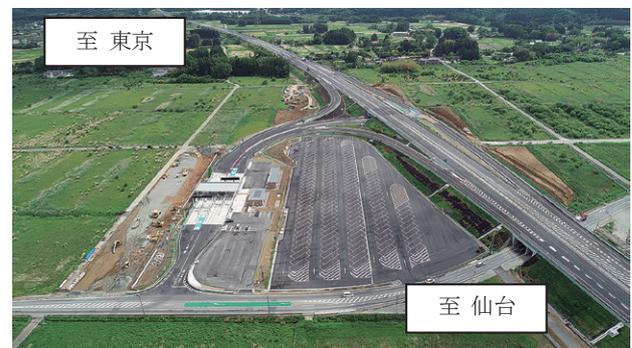
大熊ICは、福島第一原子力発電所事故に伴う帰宅困難区域に位置しており、作業員の確保や作業時間の制限の中、以下の施工上の工夫により事業を進めてきた。

- ①作業員の線量管理：入退場管理、作業員全員へ個人線量計を配布し線量管理を実施。
- ②現場作業の省力化：盛土敷均し、仕上げ作業にICT建機を活用し、作業性や施工精度の向上、転圧時の作業員の削減を図った。
- ③施工期間の短縮：常磐自動車道本線を横断するカルバートボックスにハーフプレキャストボックスを採用し、施工期間の短縮を図った。

### 3. 事業の成果

当該事業により、以下の効果が期待される。

- 復興への支援
- 緊急時における避難路の確保
- 除染・中間貯蔵施設事業の加速
- 福島第一原発事故に伴う廃炉作業の進展
- 消防・救急等に係る緊急車両による広域活動迅速性の確保



大熊 IC 全景

### 4. おわりに

大熊ICの開通に合わせて、ICと接続する大熊町道西20号線の自由通行が可能となり、IC近隣には大熊町役場の新庁舎をはじめとした復興拠点の整備が進められている。大熊ICの完成が地域の復興・再生に直接つながると期待される。

最後に、本事業の建設にあたり、地権者及び工事関係の皆様方には、この場をお借りして、改めて心より深く感謝申し上げます。

賛助会員 (株)ガイアート、(株)関電工、清水建設(株)、(株)吉久建設